

[科目区分]: 教育実践高度化専攻 リーダーシップ開発コース・教育実践開発コース

[授業科目名]: 集団づくりの道徳論的アプローチ

[登録学生数]: 9名

令和3年度「授業評価・授業研究報告」

教育学専攻科 山内 孔

## 1 授業概要

道徳教育は「特別の教科道徳」(以下道徳という。)を要とし、学校教育活動全体を通して行うことで、個々の人格形成だけでなく、集団づくりにも寄与している。また、話し合い活動等を通じて道徳を充実するためにも、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表明し合う集団の育成が必要である。

今回の授業は、大学院での研究のテーマの一つである理論と実践の往還を目指して、理論を学び、実際の授業作りから授業参観、振り返りの活動を取り入れることとした。

まず、理想的な集団づくりのために必要な道徳論的アプローチの理論について検討した。その上で、実際にグループワークを体験したり、道徳の授業分析を行ったりした。そのような実践の後、現役の小学校教諭による、実際の道徳の授業作りの講義を受け、その教材を用いた授業実践を参観した。今回は、コロナ禍であり、学校に出向いての授業参観は実施できなかったため、代表の学生2名が授業参観し、詳細な授業記録を作成するとともに、授業映像を録画し共有した。学生は、各自で授業動画を視聴したり、授業記録を閲覧したりして、授業分析を行うこととした。その授業分析をまとめ、授業者である外部講師に送付し、評価をして頂いた。さらに、中学校現場での道徳を中心とした集団作りについて、こちらも現役の教諭による講義を行った。

## 2 到達目標

集団づくりに関する道徳理論を具体的な事例に即して説明することができる。

その理論的背景に基づいて、道徳や特別活動の指導、学校全体のカリキュラム作成等、実践的な取組ができる。

## 3 授業内容(7時間構成)

### 1～3時間目

集団づくりの基本的な考え方、実践方法について具体的な事例をもとにした講義。

### 4時間目

松山市立F小学校M教諭による道徳の授業作りの講義。

- ・ 対象: 小学校5年生
- ・ 題材: 「銀の燭台」
- ・ 主題: 相互理解、寛容

### 5・6時間目

松山市立F小学校での授業参観と授業分析の実施


※大学教員と代表学生2名が学校での授業参観に参加し、授業記録の作成、授業映像の録画を行い、他の学生と共有。授業を視聴後、授業分析を実施。

### 7時間目

八幡浜市立F小学校教頭による集団づくりの実践に関する講義。

## 4 指導の工夫

- ・ 授業参観を行った後に作成した授業記録

14:59	<p>S いいです。 T ちょっと聞くんですけど、盗む気満々だったということですか。 S 条件全部そろったぞ T 盗む気満々だったと思いますか、みなさん。 S いや… T いや…、はい。〇〇さん。 S 忘れました。 T つなげてなんかちょっとそこが言いたかったんだけどね。〇〇さんは? S 銀のスプーンが今でいう20万円で、 T うんセットね。 S 何個くらい盗んだん? T セットなの。 S 1セットで何個入ってるの T わかりませんけどね。それで? S 20万で、20万のものが何個も入ってるの? T 全部だね。50万くらいかもしれないけど、わかんないです。当時のお金なので。 S 出所してからお金なんてあんまないじゃないですか。それ使って今だったらコンビニ弁当とかは500円くらいだから、50万あったらとてりあえず半年くらいは生活できて、寝るのはとてりあえず野宿、野宿は公園とかで椅子とかで寝て、食料さえあれば半年は、金さえあれば半年は自分の体半年は持つんじゃないですかね。半年の間には職見つけると思いますけどね。だから、その後の生活費のためとしてスプーンをかつばらった。どうですか。 S いいです。 T はい、じゃあちょっといいですか。今出てきたのは家は建たんけどとかコンビニ弁当くらいは買えるんじゃないの? 当時はわからんけどね。そういうのが、言うたら生活のために盗んだんじゃないですかっていつてるんですよ。そうかもしれんよ。じゃあね。そんな風に盗んだ後に捕まっても思いついたこれですよ。憲兵さんに連れてこられたときに、こうやってその銀の食器だけじゃなくて、司教さんはこの燭台まで渡してくれました。 (板書)</p>	
-------	---	---

## 5 アンケート結果（一部）

「何度実践しても、何度でも反省する」

私は、M先生の2回の講義を受けてそう思った。M先生の講義では、何度も実践したことを私たちに伝えてくださった。私は、初めてM先生のようなスタイルの授業を見ることができた。子どもが、しっかりと考えたいことを事前にアンケートで集めることで、難しい内容の中の子どもの疑問を余すところなく、考えることができると思った。M先生の講評には、「年に一度か二度、話が長い教材でじっくり考えさせたいときに使っています。」と書かれていた。この方法を実践することができるのは、今までに何度も挑戦して、何度も反省をして、次にどう生かすか」そこまで考えられていたM先生だからできることだと思った。～略～しかし、その気持ちを抑え込んで、自分の理想をしっかりと持ち、そこに対して今自分はできているのか、見返すことでより高いレベルの教師像を目指し続けることができるのだと思う。そのような、何度挑戦しても、絶対に反省をするM先生の姿こそが、「学び続ける教師」の体現であると思う。そのような先生になれるように、実践をためこんでいきたいと思う。

今回の授業は、大学で講演していただくことで理論的な部分を学んだあと、授業観察をすることで実践について間接的に学ぶという時間であった。M先生の振り返りの中にも理論と実践について述べられていた部分があったが、どちらに偏っていてもどこか不安定な指導になってしまうだろう。子どもと向き合い、よりよい教育を行っていくにあたって、実践をした後には理論に立ち戻って振り返り、理論で学んだことは実践をすることで子どもの実際の反応を見る。そしてその反応をもとにまた振り返る。このような理論と実践の往還を繰り返していくことを、道徳の授業に限らず大切にしていきたい。

## 講師の先生からのフィードバック

受講されたみなさま

授業動画視聴後の感想を讀ませていただきました。温かく率直な感想、そして鋭い指摘、たくさんありがとうございます。こんなにしっかりと見ていただき、分析していただくのは、初めてかもしれません。研究授業後の研究協議でも、なかなかできないことです。

今回は、研究授業でも参観日の授業でもない、ふだんの授業を見ていただきました。だれでも「よし、道徳やってみよう。」「道徳やってみたいな。」と思ってほしい。これが一番です。取り入れられるところは取り入れ、これは、無理だと思えば、違う形で。いろいろアレンジして、チャレンジされることを願っています。

さて、いくつかご質問をいただきましたので、お答えになるかどうか分かりませんが、書いてみます。お礼の気持ちを込めて。

### 1 ふだんの子どもの関わりについて

児童・生徒理解はとても大切です。授業は、すべて目の前の子どもたちの実態把握の上になり立っていくものです。ですから、子どもたちを先入観で見てしまっていないか？というも考えています。

その捉えとして例えば、週1回のテーマ日記。（数年前までは、毎日交換日記状態でした。それは、さすがに大変。）日記のテーマを決めます。「好きな曲・先生におすすめ!!」というふうに、私に対して、自分の好きなおすすめ曲、アニメ、お店、……。読みながら、ユーチューブで全部検索。「先生、聴いてくれましたか?」と話題が弾む。意外な子が意外な曲を聴いていたりして、今まで知らなかった世界が広がります。

最近では、思うような活動できないので、「ちょこっとハッピーを見つけよう!」としています。小さなハッピーを持ち寄れば大きなハッピーに近づくかも。制限ある中で、いかに楽しいことを見つけられるか。『少女ハレアナ』（ハラス名作劇場で『愛少女ポリアナ物語』）の中の「よかったさがし」やフランクルの『夜と霧』における「極限の中で見出す生きる喜び」（ちょっと重すぎてスケールが違いすぎかもしれませんが。）のように。話しにくい児童も、この日記の中で、いろいろなことを考えていたり、経験したりしていることが分かります。日記ではちゃんと教えてくれます。家での様子をそのまま学校で出してもらえたらどんなにいいか!!

## 6 成果と課題

今回の授業は、理論と実践の往還を目指して、授業作りの基本的な考え方を座学にて学び、授業を実際に大学で体験して、現場の講師を招いての授業作り講座に臨んだ。そこでは、教材の解釈から、価値づけ、主発問の審議など実際の授業を想定したワークショップを行った。その授業を受けて、翌週に同じ題材で実際に授業を行い、授業分析を行った。外部講師の力添えを頂き、学生のアンケートにもあるように非常に実践的な授業にすることができた。外部講師からの細かなフィードバックも頂くことができ、多岐にわたる学びを得ることができた。近い将来、教壇に立つ学生にとって、今回の実践的な学びは貴重な経験となった。

このような学びを実現していくには、現場の先生方の協力を得た上で、実際の指導の場面に臨場することで最大の効果があると思われる。感染症対策のため、現場に出向くことが難しい中でも、より効果的な方法を検討していきたい。